特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2020年 第1号（4月）

ニュースレター

〒170-0003
東京都豊島区駒込1-43-9　（一財）口腔保健協会内
TEL：03-3947-8891　FAX：03-3947-8341　http://www.perio.jp/
発行人　村上伸也　　編集　広報委員会

【主要コンテンツ】　秋季学術大会関連のご案内　新分類への対応　理事長選挙中間報告
AAP 2020年大会のご案内　認定資格申請のお知らせ　各賞・助成等の選考結果と募集

国際交流委員会から

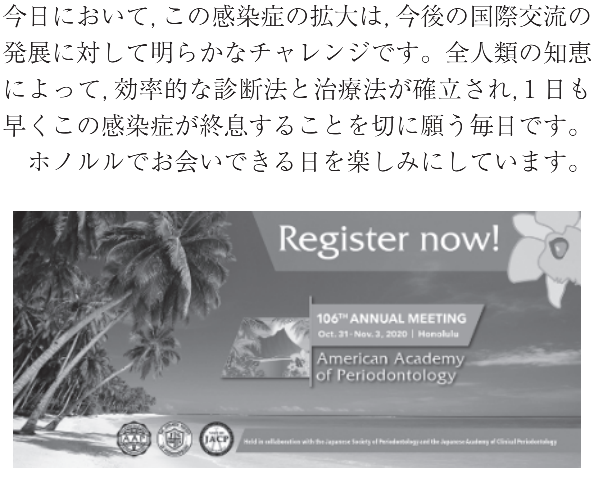
国際交流委員会委員長
古市保志

2019，2020年度の国際交流員会の活動と活動計画について報告させていただきます。2019年度は，春季学術大会でのInternational Sessionで，EFP，ISP，CSP，KAPから4名の若手研究者の発表が国内からの4演題の発表とともに行われました。瀋陽で開催された中国牙周病学会において，同会，韓国歯周病学会および歯周病学会とで，若手研究者がそれぞれ3名発表を行うシンポジウムが開催されました。また，秋のソウルでの韓国歯周病学会General SessionのInternational Symposiumに1名の若手研究者の招聘があり，発表が行われました。さらに，TAP，KAP，IAPからも特別講演の派遣依頼があり，それぞれJSP代表者として講演を行っていただきました。

2020年度にも多くの国際交流関連の活動が行われます。KAPの春の学会の特別講演，秋のGeneral Session（60周年記念大会）では，JSPからの招待講演，理事長講演が予定されています。また，2020年10月31日から11月2日までアメリカ・ハワイにて，第106回AAP年次大会が，日本歯周病学会と日本臨床歯周病学会との共催で開催されます。ハワイ・ホノルルでは，第86回および第96回の共催大会に続き，10年ぶりの開催となります。大会期間中は，JSP，JACPからも複数の演者によるGS，SCE，IPでの発表が予定されています。さらに，これまでも共催大会において行われてきたJSP-JACPポスターセッションも独立して開催されますので，会員の皆様方の多くのポスター発表と，奮ってのご参加をお願いいたします。

ここまでの原稿を準備したのが2月12日，そして本日が3月3日となっております。その3週間の間に何が起きていたかといいますと，国内におけるCOVID-19の感染拡大です。2月中旬から今日まで多くの陽性者の報告が相次ぎ，原稿に手がつけられませんでした。このニュースレターが発行される4月にはどのような状況となっているのでしょうか。中国の爆発的な感染拡大のみならず，この1～2週間の日本，韓国，イタリア，中東での感染拡大には驚くべきものがあります。以前に比べ，格段に国際間で人の行き来が頻繁になり，国際交流の重要性が各方面で提唱されている今日において，この感染症の拡大は，今後の国際交流の発展に対して明らかなチャレンジです。全人類の知恵によって，効率的な診断法と治療法が確立され，1日も早くこの感染症が終息することを切に願う毎日です。

ホノルルでお会いできる日を楽しみにしています。



追悼　渋谷俊昭　先生

渋谷俊昭先生は，1984 年 3 月に岐阜歯科大学歯学部を卒業後, 同年 4 月から岐阜歯科大学大学院に入学し，1988 年 3 月に名称変更になった朝日大学大学院を修了されました。1988 年 4 月からは歯周病学講座の助手に就任，1993 年 10 月には講師，2005 年 4 月からは歯周病学講座の教授に就任されました。

大学院時代の研究成果は，日本歯周病学会会誌 30 巻 3 号（1988）700-717 頁に「歯周病原性細菌のマウス免疫機構に及ぼす影響」として掲載されています。

1990 年 10 月からは，カナダ・トロント大学歯学部 MRC Group in Periodontal Physiology の Johannes Heersche 教授の教室に 2 年間留学し，破骨細胞の研究に従事され，その成果は J Bone Miner Res（Shibutani T, Heersche JN, Effect of medium pH on osteoclast activity and osteoclast formation in cultures of dispersed rabbit osteoclasts. J Bone Miner Res 8, 331-336, 1993）に掲載されました。

日本歯周病学会では，評議員（1994～2019 年），理事（2005～2019 年），常任理事（2009～2016 年），広報委員会委員長（2009～2010 年），歯科衛生士関連委員会委員長（2011～2012 年，2015～2016 年），国際交流委員会委員長（2013～2014 年）を歴任され，2014 年春季日本歯周病学会学術大会大会長を務められました。2014 年春季大会の際は，韓国歯周病学会からの参加者が多く，長良川沿いの松阪牛レストランに大勢で行ったことが思い出されます。

個人的に話をしたり，食事やお酒を一緒に楽しむ機会が多く，時期は違いますが，留学先が同じトロント大学歯学部の MRC Group in Periodontal Physiology であったことから，仲良くお付き合いさせていただきました。2004 年 5 月に鹿児島で開催された第 47 回春季日本歯周病学会学術大会の懇親会は，錦江湾クルージングでしたが，そのときの渋谷先生はピアスをしていてとても若々しかった記憶があり，その頃から親しくなりました。多くの学会に一緒に参加しましたが，最後になったのは 2018 年 6 月にアムステルダムで開催された Europerio 9 でした。いつもより心なしか元気がなく，お酒もあまり飲まなかったように記憶しています。

Europerio 9 にて

渋谷先生に最後に会ったのは，2018 年 10 月 19 日（金）東京駅の八重洲倶楽部で開催された日本歯科保存学会の編集委員会でしたが，顔色が悪く，痩せたように思いました。翌日から開催される日本レーザー歯学会（10 月 20～21 日）に参加予定であること，10 月 27～30 日にカナダ・バンクーバーで開催されるアメリカ歯周病学会（日本臨床歯周病学会および日本歯周病学会共催大会）にはドクターストップがかかって参加できなくなったなどの話をしましたが，渋谷先生の体調のことについてはあまり伺うことができず，それが最後になりました。

翌週 10 月 24～26 日に大阪で開催された第 61 回秋季日本歯周病学会は欠席され，その後入院されたことを聞いたため何回か携帯電話に連絡しましたが，不通のままとなりました。

渋谷先生は博識で，いつもいろいろなことを教えていただき，励ましていただきました。日本歯周病学会にとって先生を失ったことは大変な痛手です。

どうぞ安らかにお眠りください。ご冥福をお祈りいたします。

日本大学松戸歯学部歯周治療学
小方頼昌

追悼　國松和司　先生

令和元年12月25日，元常任理事の國松和司先生が66歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

國松先生は，昭和28年8月28日，長崎県佐世保市のお生まれで，岩手医科大学歯学部を昭和59年3月にご卒業後，長崎大学歯学部歯科保存学第2講座に入局され，助手，講師を経られて，平成15年1月に母校の岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座教授に着任されました。その後，岩手医科大学歯学部学生部長を務められ，日本歯科保存学会理事，日本歯周病学会では常任理事（臨床研修委員会委員長）としてご活躍，平成22年5月には，大会長として第53回春季日本歯周病学会学術大会を盛岡市にて盛況のうちに開催されました。平成22年12月にご退職後，平成28年4月より松本歯科大学に特任教授（総合口腔診療部）として着任されました。この間，36年もの長きにわたり，研究・臨床・教育および大学運営に貢献されました。

國松先生の研究活動は，歯周病の病因解明と診査・診断法の確立でした。その主たるテーマは，歯周組織破壊過程におけるリソゾーム性プロテアーゼの役割を探求することであり，これを定量することによる歯周病診断の確立を目指され，多くの研究業績を残されました。

國松先生は，一貫して臨床から学ぶことの重要性を強調され，実践されてきました。最後まで歯周病治療を続けられ，患者さん・スタッフからは絶大なる信頼を得られておりました。長崎大学歯学部歯科保存学第二講座時代の患者さん方とも親睦会を開催され，継続して連絡をとっておられるというお話や，医局内セミナー，先生が主宰されていた松本歯科大学病院歯周病懇話会での長期にわたる症例を拝見しても，歯周病の領域にとどまらず，口腔内の疾患全般，さらには全身の健康までの改善を求めて，常に患者さんから学び，臨床から真理を得ようとされていたことが伺われます。

同時に，卒前・卒後ともに歯学教育をとても大切にされていました。特に，学生への講義に関しては例年どおりの授業を行うことを嫌われ，夜遅くまで残られて常に新しい知見やトピックスを盛り込んで刷新したパワーポイントスライドを作成されていました。悲しくも先生との最後の会話が「吉成先生，来年度も講義させてね」でした。お体がかなり不自由になられていても，歯学教育に対して並々ならぬ情熱をおもちだと感服した次第です。

講座内では，私を立てて一歩引いたところから全体を見渡していただき，多くのご助言・ご指導をいただくことができました。先生は，穏やかななかにも厳しさをもって学生・医局員の指導にあたられました。歯科保存学講座の症例検討会で「考えませんでした，できませんでしたというのは簡単である。しかし，せめて自分はここまで努力したということくらいは示さなければ，適切な指導を今後一切できないし，望めない。」と毅然と言い切られ，若いスタッフに対して愛情をもちつつも，検査から導かれた治療計画に則って治療をやり遂げる実行力と厳しさを教示されました。

國松先生と私の出会いは，先生が本学会臨床研修委員会委員長でおられた平成19，20年に盛岡・新潟・長崎で開催された臨床研修会の演者に選んでいただいたときから始まります。その際の打ち合わせや反省会などでいろいろなお話を聞かせていただき，またかわいがっていただきました。先生はとても頭の回転が速く，そのなかにジョークも入ってくるので当時は会話についていくのが大変だったのもいい思い出です。以後，学会などでお会いするたびに気にかけていただき，ご縁があって同じ職場で働くことができました。

いまここに，日本歯周病学会の発展に賜りましたご尽力に心より感謝を申し上げるとともに，松本歯科大学で先生の薫陶を受けた者より，國松先生への感謝と哀悼の意を込めて追悼文を捧げます。

松本歯科大学歯科保存学講座
吉成伸夫

「歯周病のリスク管理は，全身の健康に寄与するか？」第 63 回秋季日本歯周病学会開催に際しての主旨説明と開催のご案内

2020 年 10 月 16, 17 日に日本歯周病学会秋季学術大会を北陸金沢で開催させていただきます。そのメインテーマは「歯科医科連携による歯周病リスク管理」とさせていただきました。「医科歯科」とせず，あえて「歯科医科」としたのは，糖尿病と歯周病に代表される医科歯科連携においては，まず，従来型の歯周治療から，歯周医学（ペリオドンタルメディスン）に基づいたいわゆる「歯周医療」への歯科からの行動変容が求められているという想いからです。また「歯周病リスク管理」という言葉の背景には，慢性疾患重症化予防の実現には，超高齢社会における日常化した医療に対して歯科医師・歯科衛生士そして医療従事者が一丸となったチーム医療の実現が必須という想いがあります。最近では，健康寿命からさらにステップアップして，百寿社会となったわが国の今後を「幸福寿命」という視点で考えよう！という方向性も示されています。歯周病も現在，疾病負荷の観点から新しい方向性がいくつか示されて，口腔疾病としての歯周病も非感染性疾患（NCD）として認識されるようになり，健康寿命延伸，医療費適正化，健康格差是正への寄与が期待されています。これらの背景を基盤に，歯周病も従来の重症度・症候群分類に加えて，疾病負荷の観点からステージとグレードによる新分類が提唱されています。リスク検査→診断→治療という医科モデルに準じた疾病管理により，糖尿病などの歯周病関連疾患のいわゆる「未病検査」に基づく先制医療と健康維持を実践するうえで有用な診断分類となることが期待できます。さらに，歯周病と糖尿病の医科歯科連携の促進普及を意図した日本歯科医学会からの要請を受け，「糖尿病関連歯周炎」の保険病名策定に向けて，日本歯周病学会において診断基準の検討作業が実施されています。人の老化パターンは生活習慣病の合併に起因した要介護疾病モデルとフレイル虚弱モデルに分類されていますが，歯周病の進行，歯の喪失パターンもそれと類似したパターンを示すことが長期データベース研究により明らかにされており，Productive な老後に向けて歯周病や口腔の機能低下を意識した医科歯科連携によるライフコースアプローチを可能とするための，さらなる長期的臨床エビデンスの構築と社会体制の整備が望まれています。一方，食習慣（食栄養・食生活習慣）と疾病との関連が明らかになっているものとして，2 型糖尿病や脂質異常症，肥満などとともに「歯周病」が明記されています。生活習慣病という視点から歯周病を捉えた場合は，歯周病発症および重症化の環境リスク因子のなかでも食習慣因子への対策として，食栄養指導支援を医科歯科連携の一環として歯科で行う必要があります。平成 30 年度に制定された特定健診の質問項目に，咀嚼能，早食い，糖質の摂取および間食に関連して歯科から国民の生活習慣の改善を指導できる項目が追加となり，今後，歯周病を含む生活習慣病予防とその症状改善のために，食栄養指導支援を，医科の主治医や管理栄養士，保健師と歯科医師および歯科衛生士がチーム医療として双方の視点から連携して行っていくことができるようになることが期待されています。歯周治療においては，禁煙指導支援とともに食栄養指導支援においても，[医科歯科連携した保健指導支援を実施できる者] としての歯科医療従事者の真価が問われることとなります。

以上の観点から学会第 1 日目では，特別講演の演者として歯周医学研究の第一人者であるオランダ ACTA の Bruno Loos 先生に「歯周医学の過去，現在，未来」というタイトルでご講演を依頼しています。また学会第 2 日目では，特別講演の演者として糖尿病と食栄養に関して見識の深い岐阜大学医学部糖尿病内科の矢部大介先生による「超高齢社会を迎えた糖尿病対策：食事療法のパラダイムシフトと重症化予防に向けた医科歯科連携」というタイトルでのご講演を予定しています。さらに，メインテーマの主旨を反映した認定医・専門医ならびに歯科衛生士教育講演，地域参加型の医科歯科連携シンポジウムを含む各種シンポジウムや歯科衛生士シンポジウム，市民講座，そして，ランチョン・スイーツ・ブランチセミナーなど多彩な企画を予定しています。コロナウイルスの収束を祈願し，オリンピックイヤーの架け橋となった 2020 年，観光文化都市である金沢での初の学術大会開催を機に皆で楽しく学び合うとともに，北陸の秋を満喫していただければ幸いです。全国から多数の皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

第 63 回秋季日本歯周病学会学術大会　大会長
三辺正人

1. 会　期

令和2年（2020年）10月15日（木），16日（金），17日（土）

2. 会　場

石川県立音楽堂，ホテル日航金沢，もてなしドーム（石川県金沢市）

3. 担　当

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 口腔統合医療学講座 歯周病学分野

大会長：三辺正人

プログラム委員会委員長：小方頼昌（日本大学松戸歯学部）

準備委員長：青山典生

4. テーマ

「歯科医科連携による歯周病リスク管理」

5. 本大会の特色

①各種セミナーの充実

本大会では，さまざまな内容のセミナーをリラックスして聞いていただけることをコンセプトに，通常のランチョンセミナーに加えて，モーニングセミナー・ブランチセミナー・スイーツセミナーなど多彩な企画をご用意しております。

②市民参加型の大会

一般の市民の方にも当学会活動の一端をご理解いただけるよう，市民公開講座に加えて，一般演題ポスターと一部の企業展示については市民参加型といたします。なお，臨床ポスターや歯科衛生士ポスターは，参加者のみの入場に限ります。

③パイプオルガン演奏

本学会場である石川県立音楽堂ならではの企画として，プロ奏者によるパイプオルガン演奏を予定しております。10月17日（土）朝の倫理委員会企画講演の前と，夕方の認定医専門医教育講演の前に，A会場にて開催いたします。

6. 参加登録

事前参加登録：2020年6月1日（月）正午より2020年8月31日（月）正午まで

	事前	当日
正会員（歯科医師・医師ほか）	5,000円	8,000円
準会員（上記以外）	3,000円	6,000円
非会員（歯科医師・医師）	10,000円	13,000円
非会員（上記以外）	5,000円	8,000円
学生（歯学部・専門学校生）	当日のみ	1,000円

7. 一般演題登録期間

2020年6月1日（月）正午より2020年6月30日（火）正午まで

金沢駅・鼓門（写真提供：金沢市）

第63回秋季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は，一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくことになりますが，受付は下記の学術大会ホームページのみからになりますのでご注意ください。

http://web.apollon.nta.co.jp/jspf63/(学会ホームページ http://www.perio.jp からも入れます)

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は，第63回秋季日本歯周病学会学術大会運営事務局（株日本旅行　西日本MICE営業部）までお問い合わせください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも，筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが，筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また，本学術大会における筆頭発表は1名1演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

2020年6月1日（月）正午より
2020年6月30日（火）正午まで（締切厳守）

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起こりやすいので，それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

演題申し込み時には登録サイトにて，留意事項を必ずご確認のうえで応募くださいますようご案内申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については発表をお断りすることがあります。特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認，症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので，ご注意ください。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと，筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時，および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位，認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ210 cm×幅90 cmといたします。表示形式および表記様式，ポスター討論についての留意事項は学術大会ホームページにてご確認ください。

演題番号の個所や顔写真の掲示場所，承認や同意の記載場所，ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。なお，演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし，なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が，ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし，留意事項を遵守されていない場合は対象外）。なお，臨床ポスター賞・ベストハイジニスト賞の事前審査をいたします。詳細は学術大会ホームページの演題登録画面よりご確認ください（事前審査提出締切：臨床ポスター賞2020年9月4日（金），ベストハイジニスト賞2020年9月25日（金））。受賞発表および表彰は次回学術大会（第64回春季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際，受賞ポスターは再掲しますので，発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長　吉成伸夫
認定医委員会委員長　山本松男
歯科衛生士関連委員会委員長　坂上竜資

認定医，専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では，本年度の認定医，専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新，ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第31回認定歯科衛生士認定審査）および更新
   2020年6月1日（月）：受付開始
   2020年6月19日（金）：締め切り（消印有効）
   2020年7月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
   2020年9月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション
   2020年10月15日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認
   2020年10月16日（金）：第63回秋季学術大会（石川）時に合格発表
2. 専門医・指導医申請（第63回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新
   2020年6月22日（月）：受付開始
   2020年7月10日（金）：締め切り（消印有効）
   2020年7月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
   2020年10月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催
   2020年10月15日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認
   2020年10月16日（金）：第63回秋季学術大会（石川）時に合格発表
3. 認定医申請（第24回認定医認定審査）および更新
   2020年7月13日（月）：受付開始
   2020年7月31日（金）：締め切り（消印有効）
   2020年8月頃：申請および更新に関する書類審査会開催
   2020年10月15日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：ホテル日航金沢
   申請・更新合格者を理事会で承認
   2020年10月16日（金）：第63回秋季学術大会（石川）時に合格発表

> ⇒平成30（2018）年1月1日より，新規認定医申請の際に，本学会が行う倫理に関する講演の受講（1回以上）が義務付けられました。

以上の各資格の申請・更新手続き，申請書類や規則等については，学会ホームページ（http://www.perio.jp）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお，規則・細則は改訂されることがありますので，ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医，専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は2020年6月22日（月）～7月10日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては，学会ホームページ（http://www.perio.jp）に記載しておりますので，これに従い手続きを行ってください。

認定医，専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会，指導医等主催による任意の研修会について，研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は2020年6月22日（月）～7月10日（金）です。手続きの方法等を学会ホームページ（http://www.perio.jp）に記載しておりますので，これに従い手続きを行ってください。2020年8月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

歯周病の新分類への対応

2018 年 6 月に，アメリカ歯周病学会（AAP）・ヨーロッパ歯周病連盟（EFP）より公表されました歯周病の新分類に対する日本歯周病学会の対応を，以下のとおり，お知らせいたします。

2017 年 11 月，AAP・EFP 共催ワークショップ「World Workshop on the Classification of Periodontal and Peri-Implant Diseases and Conditions」が米国シカゴで開催され，歯周病の新分類策定についての議論がなされました。このワークショップでは世界各国から 100 名を超す歯周病学分野・インプラント学分野の専門家が一堂に会し, 前回の 1999 年に開催されたワークショップ以降に蓄積された歯周病学・インプラント学に関する科学的エビデンスを吟味し，新しい分類作成についての議論がなされました。後日，その議論の結果はコンセンサスレポートとしてまとめられ，2018 年 6 月，アムステルダムで開催された EuroPerio 9 の会期中に公表されました。これら一連の議論に用いられた総説および成果として取りまとめられたコンセンサスレポートは，Journal of Periodontology および Journal of Clinical Periodontology の誌上ならびに，AAP・EFP のウェブサイトにおいても閲覧可能です。また，これらの正式文書の翻訳作業が日本臨床歯周病学会との合同で進められており，本年度内の出版を目指しております。

今回の新分類で，最も大きな変化が示されたのは歯周炎の分類です。1999 年に定められた分類では，歯周炎を侵襲性歯周炎と慢性歯周炎に大きく 2 つに分けていましたが，新分類では，これらを 1 つの歯周炎としてとりまとめたうえで，ステージとグレードという，診断のフレームワークが導入されました。具体的には，歯周炎の重症度・複雑度が 4 つのステージ（ステージ 1 が最も軽症，ステージ 4 が最も重症）に，歯周炎の進行リスクが 3 つのグレード（グレード A が最も低いリスク，グレード C が最も高いリスク）に分けられ，グレードの決定に関しては喫煙や糖尿病といったリスクファクターが勘案されることとなりました。

ここでは，ステージとグレードの分類表の日本語訳（日本歯周病学会認定）を提示させていただきますので，ご活用ください。また，この日本語訳をなんらかの目的で活用される際には，こちらのサイトを引用し

歯周炎のステージ		ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ
重症度	歯間部の最も大きな CAL	1〜2 mm	3〜4 mm	≥5 mm	≥5 mm
	X 線画像上の骨吸収	歯根長 1/3 未満 （<15%）	歯根長 1/3 未満 （15-33%）	歯根長 1/3 を超える	歯根長 1/3 を超える
	歯の喪失	歯周炎による喪失なし		歯周炎により 4 本以内の喪失	歯周炎により 5 本以上の喪失
複雑度	局所	最大プロービングデプス 4 mm 以内 主に水平性骨吸収	最大プロービングデプス 5 mm 以内 主に水平性骨吸収	ステージⅡに加えて： プロービングデプス 6 mm 以上 3 mm 以上の垂直性骨吸収 根分岐病変 2〜3 度 中程度の歯槽堤の欠損	ステージⅢに加えて： 複雑な口腔機能回復治療を要する以下の状態 咀嚼機能障害 二次性咬合性外傷（動揺度 2 度以上） 重度の歯槽堤欠損 咬合崩壊・歯の移動・フレアアウト 20 本以下の歯（10 対合歯）の残存
範囲と分布	ステージに記述を加える	それぞれのステージにおいて拡がりを，限局型（罹患歯が 30％未満），広汎型（同 30％以上），または大臼歯/切歯パターンかを記載する			

ver. 20191223　　CAL：クリニカルアタッチメントロス

<table>
<tr><th colspan="3">歯周炎のグレード</th><th>グレード A
遅い進行</th><th>グレード B
中程度の進行</th><th>グレード C
急速な進行</th></tr>
<tr><td rowspan="3">主な基準</td><td>進行の直接証拠</td><td>骨吸収もしくは CAL の経年変化</td><td>5 年以上なし</td><td>5 年で 2 mm 未満</td><td>5 年で 2 mm 以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">進行の間接証拠</td><td>骨吸収
%/年齢</td><td><0.25</td><td>0.25〜1.0</td><td>>1.0</td></tr>
<tr><td>症例の表現型</td><td>バイオフィルム蓄積は多いものの，組織破壊は少ない</td><td>バイオフィルム蓄積に見合った組織破壊</td><td>バイオフィルムの蓄積程度以上に組織破壊；
急速な進行 and/or 早期発症を示唆する臨床徴候（例：大臼歯/切歯パターン，標準的な原因除去療法に反応しない）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">グレードの修飾因子</td><td rowspan="2">リスクファクター</td><td>喫煙</td><td>非喫煙者</td><td>喫煙者
1 日 10 本未満</td><td>喫煙者
1 日 10 本以上</td></tr>
<tr><td>糖尿病</td><td>血糖値正常
糖尿病の診断なし</td><td>HbA1c 7.0%未満の糖尿病患者</td><td>HbA1c 7.0%以上の糖尿病患者</td></tr>
</table>

ver. 20191223　　CAL：クリニカルアタッチメントロス

ていただきますよう，お願いいたします。

なお日本歯周病学会は，これまで長年蓄積されてきた臨床上および研究上の貴重な資産を途切れることなく継続的に活用できることを念頭におき，暫間的な対応として，これまでの分類に新分類を併記して用いることを決定いたしました。すなわち，まず「限局型か広汎型か」，次にこれまでの分類法である「慢性歯周炎か侵襲性歯周炎か」を記し，その次にステージ，最後にグレードを記載していただくことといたします。具体的には

広汎型　慢性歯周炎　ステージⅢ　グレード B
限局型　侵襲性歯周炎　ステージⅣ　グレード C

のように記載していただくことになります。

また，認定医，専門医・指導医ならびに認定歯科衛生士の申請については，令和 2 (2020) 年度を移行期間（これまでの分類でも，上記の分類でも可）とし，令和 3（2021）年度より本格実施するものといたします。

今後，新分類の定着状況や科学的エビデンスの集積状況等を勘案し，診療・教育・研究の現場で混乱が発生することがないように十分な配慮を行い，新分類への移行を図りたいと思います。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和元（2019）年 12 月 20 日

理事長　村上伸也

第 24 期理事長選挙中間報告

来る令和 2（2020）年 5 月 28 日に開催される，第 63 回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会において，次期理事長選出の選挙を行います。

理事長選挙管理委員会より，事前に理事長有資格者の先生方に立候補の意思の確認をさせていただいたところ，下記の 4 名の先生が「理事長有資格者として理事会の議を経て選挙管理委員会に推薦される事」に同意してくださいました。なお，所信表明をご執筆いただいております。

同意者が 4 名にとどまったため，評議員選挙での上位 5 名を決定する必要がなくなり，選挙は 5 月 28 日の第 63 回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会での 1 段階選挙となります。

しかし，規定上の手続きにより，選挙の前に理事会において次期理事長有資格者 4 名を一括して選挙管理委員会に推薦いただく必要があり，持ち回り会議（郵送）によりご了承をいただきました。

結果と致しまして，理事 52 名中 52 名のご返答をいただき，その全員に理事会よりの推薦として同意いただきましたのでご報告させていただきます。

定款 37 条の 3 分の 2 以上を満たしておりますので理事会（持ち回り会議）として成立し，第 38 条による理事総数の過半数の同意も得られましたので正式に理事会承認とさせていただきます。

4 名の「次期理事長有資格者」を選挙管理委員会より「次期理事長候補者」として令和 2（2020）年 5 月 28 日に開催される，第 63 回春季日本歯周病学会学術大会時の理事会において報告させていただき，当日直接選挙が行われます。

記

次期理事長候補者：
小方頼昌，高柴正悟，坂上竜資，沼部幸博（届出日順）

理事長選挙管理委員会
委員長　湯本浩通

学術賞・研究助成・地域活動賞・若手研修会の集いのご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。なお，今年度の企画調査研究助成募集はございません（隔年での募集：次回募集は 2021 年）。

申請期間：2020 年 4 月 20 日～6 月 19 日（1～2），2020 年 2 月 3 日～5 月 31 日　※消印有効（3）
申請書類提出用ユーザー名：JSP-2020（1～2）
申請方法：ホームページからの申請（1～2）。郵送（3）

1. 第 20 回日本歯周病学会学術賞（2020 年度）

本賞は，会員のうち歯周病学において継続して優れた業績を上げた研究者の功績を讃えることを目的に設けられました。副賞としてライオン株式会社のスポンサーシップを得ており，本賞（学術賞盾）のほかに副賞 20 万円と盾（LION Award）が贈られます。応募資格をご確認のうえ，奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_science/

2. シーズ育成若手奨励研究助成（2020 年度）

本会では若手会員を対象とし，わが国における歯周病の研究・教育・医療および予防を推進することにつながるシーズ研究を奨励することを目的として，シーズ育成若手症例研究助成を制定しております。応募資格をご確認のうえ，奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_seeds/

3. 地域活動賞（2020 年度）

日本歯周病学会地域活動賞は，歯周病の予防・治療を通して，地域住民の健康増進に寄与した優れた活動

業績を上げられた団体を表彰することを目的として2018年度に創設されました。応募資格をご確認のうえ，奮ってご応募ください。

http://www.perio.jp/member/award/regional.shtml

4.「若手研究者の集い」合宿研修会

本研修会は，若手研究者のリサーチマインドをさらに活性化することを目的としております。秋季学術大会に合わせて開催される講演会と懇親会を含む1泊2日の合宿形式のイベントです。詳細につきましては，秋季学術大会の演題募集時期に合わせて学会ホームページで通知いたします。

歯科衛生士教育講演・臨床研修会のご案内

1. 歯科衛生士教育講演

今年度は宮崎県と沖縄県（日時・会場はともに調整中）での開催を予定しております。詳細はホームページで通知いたします。

http://www.perio.jp/member/

2. 臨床研修会

今年度は愛媛県，群馬県，沖縄県（2021年2月28日（日）予定），福井県（2021年3月28日（日）予定）での開催を予定しております。なお，2020年4月に開催を予定しておりました愛媛県，群馬県については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響により，現在，日程調整中です。

詳細はホームページで通知いたします。

http://www.perio.jp/member/

日本歯周病学会第5回近畿地区（滋賀）臨床研修会開催報告

令和2年2月2日（日）に，第5回近畿地区（滋賀）臨床研修会を大津市・ピアザ淡海にて開催いたしました。滋賀県歯科医師会との共催により，「最新の歯周病学に学ぶ」をテーマとして，教育講演，特別講演，歯科衛生士教育講演を兼ねたシンポジウムと多岐にわたるプログラムで行われました。多くの会員外参加者が集まった結果，参加者総数は238名（歯科医師：135名，歯科衛生士：99名，その他：4名）となり，無事に挙行されたことをご報告させていただきます。

ご参加の皆様，滋賀県歯科医師会関係者の皆様，ご協賛いただいた企業各社様および関係各所に改めて御礼申し上げます。

令和2年度は，全国各地で計4回の臨床研修会開催を計画しておりますので，詳細は決定次第，ホームページで通知いたします。

http://www.perio.jp/member/

各賞・助成選考結果

シーズ育成若手奨励研究助成（2020 年度）

黄地健仁
（慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）
「Genetic Lineage Tracing と組織透明化法を用いた歯周組織幹細胞の同定と歯周組織オルガノイドの構築」

企画調査研究助成（2020-21 年度）

山城圭介
（岡山大学大学院医歯学総合研究科歯周病態学分野）
「AI を用いた歯周病の診断と進行予測に向けて―口腔内細菌叢の次世代シークエンスデータを用いた多変量解析―」

第 19 回学術賞（2019 年度）

鷹原一久
（広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室）
「歯周病原細菌に対する歯周組織局所の免疫応答が及ぼす全身疾患への影響に関する研究」

第 16 回会誌賞（2018 年度）

基礎分野「ヒト歯根膜細胞の分化・増殖に対する Berberine の作用」60 巻（1）：13-25，2018
池野修功，根本英二，金谷聡介，須藤瑞樹，向阪幸彦，島内英俊，山田　聡
筆頭著者所属：東北大学大学院歯学研究科歯内歯周治療学分野

臨床分野「SPT 期間の慢性歯周炎患者における歯肉溝滲出液中の骨型アルカリホスファターゼ量と臨床パラメータとの関係」60 巻（1）：26-34，2018
上原　直，伊藤　弘，橋本修一，沼部幸博
筆頭著者所属：日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座

優秀臨床ポスター賞（第 62 回春季学術大会）

最優秀賞ポスター賞
二宮雅美
（徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野）
「周期性好中球減少症を有する母娘に認められた重度歯周炎の症例」

優秀賞ポスター賞
中村　梢
（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野）
「広汎型重度慢性歯周炎に対し，経口抗菌療法を併用した歯周基本治療を行った 1 症例」

ベストハイジニスト賞（第 62 回春季学術大会）

岡部早苗
（鶴見大学歯学部附属病院）
「歯科衛生士による糖尿病を有する歯周病患者の長期管理症例」

2019 年度功労賞

花王株式会社
株式会社トクヤマデンタル

2019 年度地域活動賞

公益社団法人東京都歯科衛生士会
「児童生徒の歯科保健指導から〜その延長線上にある歯周病予防の重要性〜」

第 106 回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会 2020 年大会のご案内

第 106 回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会 2020 年大会（AAP-JSP/JACP ホノルル大会）が，下記のとおり開催されます。

開催日：2020 年 10 月 31 日〜11 月 3 日
会　場：Hawaii Convention Center, Honolulu, Hawaii, U. S. A.

日本からも多くの先生方が演者として採択されております。

参加登録は，JSP/JACP 会員専用登録サイトで行ってください。詳しい登録方法は，日本歯周病学会ホームページ（http://www.perio.jp/　AAP-JSP/JACP 大会バナー）でご案内中です。順次更新される当該ページの最新情報にご注目ください。また，同大会期間中に JSP/JACP ポスターセッションも下記カテゴリーで開催され，優秀な発表に両学会から表彰（JSP/JACP ポスター賞）が行われます。

ポスターカテゴリー：General（basic research, clinical research），Case Report，Dental Hygiene（歯科衛生関連の症例報告および臨床研究）

皆様お誘い合わせのうえ，ご参加いただきますようお願いいたします。

理事長　村上伸也
国際交流委員長　古市保志

第 6 回「若手研究者の集い合宿研修」開催報告

2019 年 10 月 26～27 日に，第 62 回秋季日本歯周病学会学術大会に併せて，学会あり方委員会主催による第 6 回「若手研究者の集い合宿研修」が山口県下関市の「国民宿舎海峡ビューしものせき」にて開催されました。

この合宿研修会の目的は，若手研究者間の交流促進とリサーチマインドの活性化であり，秋の学術大会時に開催されるものです。現在は，若手研究者が留学を目指すきっかけ作りや情報交換のサポートを約 10 名のワーキンググループで行っています。今回は 24 名の若手研究者が参加しました（写真 1）。

研修会では，基調講演として，村上伸也理事長より歯周病研究を志された経緯やご自身の留学経験をふまえ，研究者としての姿勢や将来への展望をお話しいただきました。大学院生や指導教員のそれぞれの立場を越えて届くメッセージに，参加者一同が「お話をもっと聞きたい」という気持ちになるご講演でした。続いて，田中　麗先生（九州大学）と青山典生先生（神奈川歯科大学）のおふたりの若手研究者からも，それぞれに米国ペンシルベニア大学とノースキャロライナ大学での留学経験の講演をいただきました。渡航までの苦労，留学中の思い出，そして研究成果などを，和やかに伝えていただいたので，今後留学を考えている若手研究者の方には貴重な情報になったのではないかと思います。

このあとの二次会は恒例のフリースタイルで，興味ある研究をテーマにされているワーキンググループメンバーとのディスカッションや，他大学の若手研究者同士の交流など，自身の研究のヒントとなるような情報やアドバイスを得ることができる場になったと思います。特に，学会などの公式な場では聞くことができない内容を，アットホームな雰囲気でざっくばらんに著名な先生方から直接伺える非常に貴重な機会でもありました（写真 2）。

研修後のアンケートでは，本企画について良い評価が多く，留学について前向きに考える機会になったとの回答も多くみられました。本研修プログラムの改善についての提案もあり，次回以降は，研究内容を具体的にディスカッションできる時間が設けられるように検討しています。

次回からは名称が「若手合宿研修」へと変更になります。春季学術大会時に開催される「若手研究者の集い」とは別な企画として，有意義な時間を共有できると思いますので奮ってご参加ください。

写真 1

写真 2

本研修会の企画・開催にあたりまして，講演者の先生方，お力添えいただきました学会のあり方委員会委員長の高柴正悟先生，ワーキンググループの先生方に感謝を申し上げます。

ワーキンググループ 2019 年度幹事
水谷幸嗣（東京医科歯科大学）

次回幹事からのお知らせ：次の「若手合宿研修」は，第 63 回秋季日本歯周病学会学術大会終了後からの 1 泊 2 日（2020 年 10 月 17～18 日）で開催いたします。日本海を望む能登で美味しい海の幸をたっぷり味わいながらの研修を予定しております。若手の先生方を中心に，研究・留学に興味のある方はぜひご参加ください。

2020 年度幹事　鈴木茂樹（東北大学）

日本歯周病学会会誌のご案内

前回のニュースレター以降，日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は 2015 年よりオンライン化され，J-STAGE で閲覧できます。また，発刊に合わせてメールアラートを配信しておりますので，学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては，本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/perio/-char/ja

日本歯周病学会会誌 Vol. 61（2019）No. 3
総説
「歯周病と循環器疾患の関連解明を目指す基礎的および臨床的解析」
青山典生
「生体材料と生理活性物質を応用した *In situ* 歯周組織再生アプローチに関する研究」
白方良典
ミニレビュー
「歯周炎患者のゲノムワイド関連解析」
清水伸太郎，長澤敏行，古市保志
「組織再生を目的としたアメロジェニン研究の現在」
讃井彰一，西村英紀
トピック紹介
「歯周病と関節リウマチの新たな関連メカニズムの可能性」
佐藤圭祐，山崎和久
教育賞
「診療参加型臨床実習への多職種連携の新規導入による臨床的効果および教育的効果」
水谷幸嗣，則武加奈子，鶴田　潤，鬮　奈央子，近藤圭子，片桐さやか，竹内康雄，秋月達也，塩山秀裕，青木　章，和泉雄一，岩田隆紀，荒川真一，荒木孝二

日本歯周病学会会誌 Vol. 61（2019）No. 4
原著
「多施設後ろ向き観察研究による臨床指標としての歯周炎症表面積の基準値」
井上裕貴，畑中加珠，山本直史，平田貴久，三辺正人，山本龍生，内藤　徹，山本松男，佐藤秀一，石幡浩志，稲垣幸司，三谷章雄，中島啓介，漆原譲治，高柴正悟
「歯科初診患者の歯周病重症度と口腔関連 QOL の関連性」
横谷亜希子，松山美和，中居伸行
症例報告レビュー
「根面被覆の術式選択に CBCT を応用した一症例」
溝部健一，荒木久生
症例報告
「43 年間歯科治療歴のない結節性硬化症患者の歯周治療経験」
秋本由香利，関野　仁，小暮弘子
歯科衛生士コーナー
「歯周炎の診断と予後に関する基礎知識」
坂上竜資

役員名簿

日本歯周病学会役員（平成31（2019)年4月1日～令和3（2021)年3月31日）

理事長	村上伸也						
副理事長	五味一博						
常任理事	小方頼昌	河口浩之	齋藤 淳	坂上竜資	佐藤秀一	佐藤 聡	申 基喆
	高柴正悟	高橋慶壮	西村英紀	沼部幸博	東 克章	古市保志	三谷章雄
	森田 学	山崎和久	山田 聡	山本松男	湯本浩通	吉成伸夫	吉村篤利
監事	新井 髙	永田俊彦		庶務担当	齋藤 淳	（幹事 富田幸代）	
会計担当	小方頼昌	（幹事 竹立匡秀）					

名誉会員	安孫子宜光	雨宮 璋	新井 髙	池田雅彦	石川 烈	伊集院直邦	和泉雄一
	伊藤公一	伊東隆利	上田雅俊	上野和之	恵比須繁之	太田紀雄	大塚吉兵衛
	岡田 宏	岡本 莫	岡本 浩	奥田克爾	加藤 熈	亀山洋一郎	鴨井久一
	栢 豪洋	川瀬俊夫	川浪雅光	斎藤和子	齋藤 滋	雫石 聰	島内英俊
	下野正基	末田 武	滝口 久	田中昭男	谷口威夫	角田正健	出口眞二
	永田俊彦	中村治郎	二階宏昌	西原達次	野口俊英	野村慶雄	原 宜興
	船越栄次	堀内 博	前田勝正	宮下 元	宮田 隆	村井正大	村山洋二
	矢嶋俊彦	山田 了	横田 誠	吉江弘正	渡邊達夫		
	Alice DeForest	Gregory J. Seymour	Martin A. Taubman	Pierre C. Baehni			
	Thomas E. Van Dyke						

評議員　□理事長　◉副理事長　◎常任理事　○理事

北海道大学大学院歯学研究院
菅谷 勉（歯周・歯内，教）
田中佐織（大学病院，講）

北海道医療大学歯学部
◎○古市保志（歯周・歯内，教）
加藤幸紀（歯周・歯内，講）
○長澤敏行（臨床教育管理運営，教）
森 真理（大学病院，講）

岩手医科大学歯学部
○八重柏 隆（歯周療法学，教）
村井 治（歯周療法学，助教）

東北大学大学院歯学研究科
◎○山田 聡（歯内・歯周，教）
根本英二（歯内・歯周，准）

奥羽大学歯学部
◎○高橋慶壮（歯周病学，教）
大島光宏（薬学部，教）

新潟大学大学院医歯学総合研究科
○多部田康一（歯周診断・再建学，教）
奥田一博（歯周診断・再建学，准）
◎○山崎和久（口腔保健学，教）
川瀬知之（移植・再生学，准）
小林哲夫（総合病院，准）
杉田典子（総合病院，講）

明海大学歯学部
◎○申 基喆（歯周病学，教）
林 丈一朗（歯周病学，准）
○荒木久生（総合臨床歯科学，教）

東京医科歯科大学
○岩田隆紀（歯周病学，教）
竹内康雄（歯周病学，講）
秋月達也（歯周病学，講）
青木 章（歯周光線治療学，教）
○木下淳博（教育メディア開発学，教）
○荒川真一（生涯口腔保健衛生学，教）
新田 浩（歯科総合診療部，教）

東京歯科大学
◎○齋藤 淳（歯周病学，教）
富田幸代（歯周病学，准）

○石原和幸（微生物，教）
伊藤太一（口腔インプラント学，准）

日本歯科大学生命歯学部
◎○沼部幸博（歯周病，教）
伊藤 弘（歯周病，准）
関野 愉（歯周病，准）
○仲谷 寛（総合診療，教）
大澤銀子（総合診療，准）
小川智久（総合診療，准）

日本歯科大学新潟生命歯学部
◎○佐藤 聡（歯周病，教）
両角祐子（歯周病，准）
大森みさき（総合診療科，准）
髙塩智子（総合診療科，講）
葛城啓彰（微生物，教）

日本大学歯学部
◎○佐藤秀一（歯周病，教）
菅野直之（歯周病，准）
吉沼直人（歯周病，准）
西田哲也（歯周病，講）
今井健一（細菌，教）

日本大学松戸歯学部
◎○小方頼昌（歯周治療，教）
中山洋平（歯周治療，准）
高井英樹（歯周治療，講）
目澤 優（歯周治療，講）
落合智子（感染免疫，教）
中村悦子（歯科衛生室，衛）

昭和大学歯学部
◎○山本松男（歯周病，教）
滝口 尚（歯周病，准）
小出容子（歯周病，講）
須田玲子（大学病院，講）

神奈川歯科大学
○三辺正人（歯周病，教）
青山典生（歯周病，准）
両角俊哉（歯周病，准）
菅谷 彰（歯学教育，教）
○児玉利朗（横浜クリニック，教）

田村利之（附属病院，教）
浜田信城（微生物，教）
小牧基浩（横浜クリニック，准）
鎌田要平（横浜クリニック，講）

鶴見大学歯学部
◉○五味一博（歯周病学，教）
長野孝俊（歯周病学，准）
白川 哲（歯周病学，講）
渡辺孝章（短期大学部，教）
小林一行（短期大学部，教）
北村景子（附属病院，衛）

松本歯科大学
◎○吉成伸夫（保存（歯周），教）
宇田川信之（口腔生化学，教）
音琴淳一（健康増進口腔科学，教）
田口 明（歯科放射線学，教）
西窪結香（大学病院，衛）

朝日大学歯学部
○辰巳順一（歯周病，教）
北後光信（歯周病，准）
安田忠司（歯周病，講）
友藤孝明（社会口腔保健学，教）
荒木美穂（歯科衛生士専門学校，衛）

愛知学院大学歯学部
◎○三谷章雄（歯周病学，教）
菊池 毅（歯周病学，准）
林 潤一郎（歯周病学，講）
菱川敏光（歯周病学，講）
○福田光男（特殊診療科，教）
稲垣幸司（短期大学部，教）
長谷川義明（微生物学，教）

大阪歯科大学
○梅田 誠（歯周病学，教）
田口洋一郎（歯周病学，准）
前田博史（口腔治療学，教）
合田征司（生理学，教）

大阪大学大学院歯学研究科
□○村上伸也（口腔治療，教）
北村正博（口腔治療，准）

野崎剛徳(附属病院, 准)

徳島大学歯学部

◎○湯本浩通(歯周歯内, 教)
木戸淳一(歯周歯内, 准)
成石浩司(歯周病科, 講)
稲垣裕司(歯周病科, 講)
尾崎和美(口腔保健支援学, 教)
伊藤博夫(予防歯学, 教)

広島大学歯学部

水野智仁(歯周病態学, 講)
◎○河口浩之(大学病院, 教)

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

◎○高柴正悟(歯周病態学, 教)
◎○森田　学(予防歯科学, 教)
山本直史(歯周病態学, 准)
大森一弘(大学病院, 講)

九州歯科大学

○中島啓介(歯周病, 教)
臼井通彦(歯周病, 准)
村岡宏祐(クリニカルクラークシップ開発, 講)
溝部潤子(口腔機能支援, 衛)

九州大学大学院歯学研究院

◎○西村英紀(歯周病学, 教)
讃井彰一(大学病院, 講)
福田隆男(大学病院, 講)

福岡歯科大学

◎○坂上竜資(歯周病, 教)
吉永泰周(歯周病, 准)
○永井　淳(地域連携センター, 教)
○金子高士(口腔医療センター, 教)
米田雅裕(総合歯科学, 教)

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

◎○野口和行(歯周病学, 教)
白方良典(歯周病学, 准)
中村利明(大学病院, 講)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

◎○吉村篤利(歯周歯内, 教)
鵜飼　孝(医療教育開発センター, 准)

慶應義塾大学

○中川種昭(歯科・口腔外科, 教)
森川　暁(歯科・口腔外科, 講)

神戸常盤大学短期大学部

柳田　学(口腔保健学科, 教)
高橋由希子(口腔保健学科, 衛)

静岡県立大学短期大学部

吉田直樹(歯科衛生学科, 教)

太成学院大学

大浦　清(看護学部, 教)

東京歯科大学短期大学

杉戸博記(歯科衛生学科, 教)

日本医科大学

鴨井久博(歯科, 教)

日本歯科大学東京短期大学

野村正子(歯科衛生科, 衛)

九州看護福祉大学

金子憲章(口腔保健学科, 教)

一般関係(五十音順)

赤堀　康(愛知県)
淺原洋士(徳島県)
新井英雄(岡山県)
○有田博一(東京都)
飯野文彦(東京都)
池田康男(静岡県)
池田頼宣(東京都)
石谷昇司(東京都)
○石原裕一(東京都)
市丸英二(佐賀県)
市村　光(埼玉県)
伊藤正満(愛知県)
岩本義博(香川県)
内川宗敏(長野県)
内田剛也(神奈川県)
内田雄士(広島県)
梅村昌孝(愛知県)
○江澤庸博(東京都)
遠藤憲行(岩手県)
大井麻子(埼玉県)
大石慶二(香川県)
大江丙午(岡山県)
小田　茂(東京都)
○大野友三(愛知県)
大八木孝昌(神奈川県)
岡部京平(京都府)
長田　豊(長崎県)
片山明彦(東京都)
加藤義弘(北海道)
○金子　至(長野県)
鎌田征之(東京都)
上條博之(長野県)
亀井英彦(栃木県)
川村浩樹(東京都)
菊池重成(東京都)
北村秀和(東京都)
○木村英隆(福岡県)
久保田浩三(福岡県)
久保田健彦(新潟県)
熊谷敦史(岩手県)
黒柳隆穂(愛知県)
郷家英二(東京都)
香坂陽介(山口県)
河野寛二(奈良県)
後藤邦之(愛知県)
小林宏明(東京都)
○佐瀬聡良(千葉県)
真岡淳之(滋賀県)
澤田弘一(岡山県)
汐見　登(静岡県)
渋川義宏(北海道)
島袋善夫(大阪府)
清水宏康(東京都)
白木雅文(岐阜県)
杉田裕一(茨城県)
杉山貴志(神奈川県)
鈴木基之(東京都)
関野　仁(東京都)
瀬戸口尚志(鹿児島県)
田井秀明(新潟県)
高島昭博(福岡県)
高橋潤一(東京都)
滝川雅之(岡山県)
竹内泰子(東京都)
田中繁寿(岐阜県)
田中秀樹(福岡県)
田中真喜(神奈川県)
谷　真彦(長崎県)
谷　芳子(長崎県)
谷口崇拓(長野県)
多保　学(埼玉県)
土岡弘明(千葉県)
土井伸浩(広島県)
富井信之(新潟県)
中島貴子(新潟県)
長縄敬弘(愛知県)
二階堂雅彦(東京都)
西原廸彦(福岡県)
長谷川嘉昭(東京都)
濱地貴文(福岡県)
◎○東　克章(熊本県)
平野治朗(神奈川県)
平野裕之(京都府)
○廣瀬哲之(神奈川県)
藤川謙次(東京都)
藤田　剛(三重県)
藤本　淳(岩手県)
保坂　均(群馬県)
穂坂康朗(東京都)
町頭三保(鹿児島県)
松下健二(愛知県)
松山孝司(鹿児島県)
水上哲也(福岡県)
峯柴淳二(岡山県)
宮尾益佳(新潟県)
村上恵子(東京都)
村田雅史(新潟県)
村橋慶宣(大阪府)
茂木信道(神奈川県)
茂木美保(東京都)
梁川輝行(岩手県)
山下素史(福岡県)
吉田　茂(福岡県)
吉永英司(東京都)
吉野敏明(神奈川県)
○若林健史(東京都)
渡辺和志(埼玉県)
渡辺　久(神奈川県)

賛助会員

医歯薬出版㈱
エビス㈱
㈲エルバ
長田電機工業㈱
㈱ガイドデント
花王㈱
科研製薬㈱
クインテッセンス出版㈱
グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン㈱
合同酒精㈱
小林製薬㈱
佐藤製薬㈱
サンスター㈱
サンデンタル㈱
三宝製薬㈱
㈱ジーシー
㈱松風
昭和薬品化工㈱
ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱
ジンマー・バイオメット・デンタル㈱
ストローマン・ジャパン㈱
タカラベルモント㈱
デンタルプロ㈱
デンツプライシロナ㈱
㈱トクヤマデンタル
㈱ニッシン
日本歯科薬品㈱
白水貿易㈱
㈱白鵬
ヒューフレディ・ジャパン合同会社

㈱フィリップス・ジャパン
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン㈱
ホワイトエッセンス㈱
マイクロテック㈱
㈱モリタ
㈱ヨシダ
ライオン㈱
ライオン歯科材㈱
㈱ワイディエム

（五十音順）

日本歯科医学会役員（平成 31（2019）年 4 月 1 日～令和 3（2021）年 3 月 31 日）

理　　事	村 上 伸 也		
評 議 員	五 味 一 博	高 柴 正 悟	山 崎 和 久
予備評議員	小 方 頼 昌	齋 藤　 淳	沼 部 幸 博

［お願い］ 名称の変更・所属評議員の異動等ありましたら，すみやかに事務局までご連絡ください。

編 集 後 記

第 63 回春季日本歯周病学会学術大会（郡山）が中止になりました。まさかの新型コロナウイルスの蔓延……。中国の武漢に端を発したこの感染症は瞬く間に全世界に拡がり，遂には WHO がパンデミックを宣言する事態になりました。マスコミ・マスメディアは連日，新型コロナ感染患者の都道府県別の推移を報道し，小中高の全国一斉休校，人々の往来自粛，経済活動の停滞。そして個人的に大きな衝撃を受けた某国民的スターの悲劇……。土曜の夜を心待ちにしていた子供の頃が思い出されます（涙）。人の命をあっけなく奪ってしまう新型コロナ……。人類はこの未知のウイルスとの戦いに勝利できるのでしょうか？

さて，本論です。今号のニュースレターには，秋季学術大会のご案内，本会関連研修会の開催報告，各賞・助成等の結果報告などのコンテンツに加え，先年，提唱されました歯周病の新分類（AAP・EFP）に対する本会の対応について，その概要が示されております。私たち会員にとりまして非常に重要な情報ですので，ぜひともご一読ください。また，残念ながら昨年お亡くなりになられたお二人の先生方への追悼文も掲載されております。あらためて，歯周病学の発展に尽力された先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

昨年度来，本会広報委員会では，英語版 HP の充実化に取り組んでおります。その第一歩として，海外の方に視覚的に興味をもたれるように，歯周病に関連する歴史物二点を掲示しました。一点目は平安から鎌倉初期に描かれた「病草紙」の一部で，口を開けて歯が揺らぐ様子を妻に見せている男の絵巻物です（作者不詳，国宝）。もう一点は，有名な東洲斎写楽の「四世松本幸四郎の山谷の肴屋五郎兵衛」で，喫煙している男の様子を描いた浮世絵版画です（重要文化財）。ぜひ一度，ご覧ください。どちらの作品も歯周病との関係が示唆されますが，何となく“謎解き”の要素もありますので，この HP の絵について海外の先生から質問されたときは，上手く説明していただければと思います。

皆さま，今は先の見通しが全く立たない状況ですが，明けない夜はありません。先生方のお手元にこのニュースレターが届けられるときには，新型コロナ感染による社会の混乱と閉塞感に少しでも終息の兆しがみえていることを切に願います。秋こそは，きっと金沢で……。

（広報委員会委員　成石浩司）